

## 事例 65

### タイトル：興奮して、同じ訴えを繰り返す 90 歳代女性

#### ・ < 事例の状況 >

医療の対象となる疾患がないと思われるのに、繰り返し腹痛を訴える。何かにつけ「私は目が見えないから できない! 」と大きな声で話す。目は不自由だが、スタッフをはっきり見分けており、相手によって訴えの強弱、訴えの内容が異なる。

いったん訴えが始まると、夜中でも同じことを大声で繰り返すため、周囲のほかの入居者も落ち着かない状況となる。

「おなか痛い! 」のほか「足痛い! 」「家族に電話する! 」など、訴えはほぼ決まっている。

#### ・ < この事例で課題と感じている点 >

スタッフのかかわり方を統一することが肝心だと考えるが、大声を出されると、他者への影響を恐れてか、ついスタッフの対応が「黙ってもらおう」と先を急ぎがちになる。それは、本質的な解決にならないばかりでなく、ケアの統一を難しくしている。

#### ・ < キーワード >

大声。「おなか痛い! 」。ケアの統一。

#### ・ < 事例概要 >

【年 齢】 90 歳代半ば

【性 別】 女性

【職 歴】 事務職

【家族構成】 夫（25 年程前に死別）。子供は複数。

【認知機能】 測定未実施

【要介護状態区分】 要介護 3

【認知症高齢者の日常生活自立度】 b

【既往歴】 気管支喘息・高血圧・糖尿病・左大腿骨転子部骨折術後

【現 病】 難聴・緑内障

【服用薬】 テオドール錠・コリネールL錠・ラシックス・リポール錠・抑肝散エキス顆粒・セレキノン錠・ラックビー微粒・酸化マグネシウム・セロクエル

【コミュニケーション能力】 本人の気分が大きく左右される。興奮時は何も見えなくなり、聞こえなくなる。

【性格・気質】 朗らか・温和。好き嫌いがはっきりしている。自分の意思を堂々と表現できる。

【A D L】 移動は手すり歩行か這っている。食事は自力で取れるが、目の前のひと皿かふた皿のもののしか食べられない。排泄は、ほぼ全介助。入浴はかなりの介助を必要とする。

【障害老人自立度】 B1

【生きがい・趣味】 複数の子供を皆「上の学校」へやったことが誇り。食べること・おしゃべりすることが大好き。

【生活歴】 学校卒業後、事務の仕事をしていた。結婚後は、子育てに専念する。25年程前に夫の死後、長男宅に同居。3年程前から認知症の症状が目立ち、2年程前から老健。その1年後に骨折で入院後、グループホーム入居となる。

【人間関係】 温和で、争いを好まない。仕事はマイペースで、仕切るのが好き。

【本人の意向】 年寄りには家族がみるもの。家族が迎えに来て、連れて帰ってほしい。目も耳も不自由だから一人にしないでほしい。

【事例の発生場所】 グループホーム